

平成25年8月10日号 (第128回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、
患者の皆様とともに生命と健康を考える医療を実践します。

8月に入り、いよいよ夏本番を迎えています。熱中症にはご注意ください。
今回の阿伎留通信では、「子どものはやり目」について、眼科の眞鍋医師より紹介させていただきます。

子どもの「はやり目」に注意！！



～流行性角結膜炎の予防と治療～

流行性角結膜炎とはいわゆる「はやり目」の事です。この病気にかかりやすいのは主に保育園や幼稚園、小学校などに通う子どもたちです。特に夏のこの時期に集団発生しやすい病気の代表例なので、小さなお子様をお持ちのお母様やお父様は十分に注意して下さい。

結膜炎ってなに？

まず初めに結膜というのは、黒目のふちからまぶたの裏側までを覆っている透明な粘膜です。一般に「白目」が結膜だと思われていますが、実際の結膜は透明で、白色はその下の強膜という組織の色なんです。

その結膜に、細菌・ウイルス・カビなどの微生物、紫外線、ほこり、ゴミ、花粉などによるアレルギー反応などによって結膜に炎症が起こると、結膜炎の状態になります。一口に結膜炎と言ってもその原因は様々なので、眼科医はその原因を推測して、それに合った目薬を処方します。

これら結膜炎のうち、短期間に、集団的に発生するのがいわゆる「はやり目」、正式名称は流行性角結膜炎です。原因はウイルスによるものが一番多く、伝染性がとても強いのが特徴です。

はやり目かな?と思ったら

この病気の特徴は、まぶたの裏のぶつぶつや充血が片方の目から始まり、少し時間が経った後に反対の目にも出てくることです。また、目ヤニが非常に多く出るのも特徴の一つです。このような症状が出た場合、できるだけ早く近くの眼科を受診して下さい。というのも、この病気は非常に感染力が強く、すぐに人から人へうつっていきます。家庭内や、学校などでの二次感染を防ぐためにも、素早い受診が大切です。



はやり目(流行性角結膜炎)の症状例

流行性角結膜炎の治療法

実は、この原因ウイルスに対する有効な治療法はありません。基本的には人の持つ自然治癒力により、自然に治るのを待ちます。また他の感染を起こさないために補助的に抗菌薬の目薬や、炎症を抑えるためのステロイドの目薬などを使います。何よりも、一度かかってしまったら他の人にうつさないようにする事が大切です。

流行性角結膜炎の予防

繰り返しになりますが、この病気は人にうつさない、ということが大切です。そのためには以下のような注意が必要です。

1. 流水や石けんで手をこまめに洗う
2. 十分な休養をとる
3. 学校、幼稚園、保育園は医師の許可があるまで休む
4. 人ごみに出かけない
5. ティッシュペーパー、タオル、洗面用具などから簡単にうつるため、家族のものとは別にする

また、症状が収まっても感染力がまだ残っている場合があります。学校などへ登校する際は、かならず医師の診察を受け、許可が出たうえで行くようにして下さい。



公立阿伎留医療センター 患者サービス改善委員会 発行

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)